赤報隊の偽官軍事件

〈解読文〉

相楽総三

右之者、御一新之御時節ニ乗し、
勅命与偽り、強盗・無頼之党を
集メ、官軍先鋒嚮導隊与唱、総
督府を奉欺、勝手ニ致進退、剰
諸藩ニ応接ニおよひ、或ハ良民を
劫し莫太（ママ）之命（ママ）を貪り、種々悪
業を相働、其罪数ルニ遑あらす、
此侭打捨置候ハヽ、弥以賊徒横行
申候、終ニ天下大憂（ママ）を醸し、其勢
制すへからざるニ至る、依之誅戮・
梟首之上、遍（ママ）諸民ニ知らしむる者也、

大木四郎・渋谷総治（ママ）・西村謹吾
小松三郎・高山鍵彦（ママ）・金田源一郎
竹貫三郎

右之者、相楽総三ニ組し、同文言
三浦弥太郎・伊藤政吉・矢口一郎
山口金太郎・川崎忠兵衛・荒木又之進
白神営（ママ）・増葉備・大藤栄

髙橋新次郎　此分、片鬢剃落し曝し之上、追放

右之者共、相楽総三ニ組し、不謂（ママ）
次第有之、可被所厳科之処、
格別之御憐愍を以、死罪一等（ママ）を
被減、如斯令行者也
三月

〈読み下し文〉

相楽総三

右の者、御一新の御時節に乗じ、勅命と偽り、強盗・無頼の党を集め、官軍先鋒嚮導隊と唱え、総督府を欺きたてまつり、勝手に進退いたし、剰え諸藩に応接におよび、あるいは良民を脅かし莫大の金を貪り、種々悪業を相働き、その罪数うるに遑あらず、このまま打ち捨て置き候はば、いよいよもって賊徒横行申し候、終に天下大憂を醸し、その勢い制すべからざるに至る、これにより誅戮・梟首のうえ、あまねく諸民に知らしむるもの也、

大木四郎・渋谷総司・西村謹吾・小松三郎・高山健彦・金田源一郎・竹貫三郎

右の者、相楽総三に組し、同文言
三浦弥太郎・伊藤政吉・矢口一郎・山口金太郎・川崎忠兵衛・

荒木又之進・白神進・増葉備・大藤栄

髙橋新次郎　この分、片鬢剃り落とし晒しのうえ、追放

右之者ども、相楽総三に組し、不埒次第これあり、厳科に処さるべきところ、格別の御憐愍をもって、死罪一統を減ぜらる、かくのごとく行わしむるもの也

三月

〈用語の解説〉

・御一新…幕府から明治政府に政権が移ったこと。「一新」はしだいに「維新」の語に変わり、明治維新という歴史名辞がうまれた。

・勅命…天皇のおおせ。

・官軍…明治政府の軍隊。

・剰え…そればかりでなく。

・打ち捨て置く…放っておく。

・賊徒…朝敵など反逆者の仲間。

・誅戮…罪人を殺害すること。

・梟首…罪人を斬首してその首を晒しものにする刑。

・組する（与する）…仲間になる。関係する。

・片鬢剃り…鬢（頭の左右側面の髪）の片側をそる剃髪刑。「赤報記」には「片鬢・片眉剃り落され候うえ」とある。

〈解説〉

慶応４（１８６８）年京都を中心とした政変と鳥羽・伏見の戦いの結果、幕府にかわって新しい政治がしかれることになった。信濃にこれを告げたのが相楽総三率いる赤報隊であった。この隊は戊辰戦争にさいして官軍本隊の前方を進軍する先鋒隊であった。２月３日、官軍先鋒嚮導隊の旗を掲げ、「御一新」と新政府に認められた旧幕府領の当年分・前年未納分の年貢半減を布告して伊那谷に入り、新政府への支持を訴えた。

「大沼日記」は「六日御通行は赤報隊教導隊、大砲方、都合御同勢八十人余と申すことにて小休みの支度つかまつり候ところ、即刻御出立」とある。相楽隊は前日、山吹領法寺と宮田柏心寺に泊り、当日は下諏訪に滞陣していることから、足早に通過したことがうかがえる。

相楽総三は本名を小島将満といい、江戸に生まれた。父は下総国相馬郡（茨城県）出身の豪農・名望家であった。早くから尊攘志士となって東国を遊歴して同志をつのり、倒幕計画に参加していた。西郷隆盛の意を受けて近江金剛寺で赤報隊を組織し、１月15日に官軍の先鋒として東山道を江戸へ向かった。年貢半減を布告し、これに共鳴して入隊する農商民も多かった。

はじめ年貢半減をみとめた官軍幹部は、民心が幕府からはなれ

たことから1月下旬に半減令を撤回、赤報隊に帰還を命じた。官軍はきびしい財源不足になやんでおり、三井組などの商人から調達した借金を返済するためにも、年貢半減は不可能だったからである。総三の指揮する一隊（嚮導隊）は、それにしたがわず、なおも進軍した。

その結果、総三らを「偽官軍」「賊徒」として処分した。3月2日、総三は下諏訪にあった東山道総督府に出頭したところをとらえられ、翌3日に幹部7人とともに処刑された。罪状は、総督府の統制をはなれて、米穀・軍資金を強奪し、武器を貯えたこととされているが、いずれも事実ではない。真相は、偽官軍とすることで、年貢半減の公約をなかったものとし、新政府の面目をたもとうとしたものであった。「赤報隊の悲劇」として語られている。

斬首（ざんしゅ）の刑に処せられた下諏訪の地に、かつての同志や有志により、明治3（1870）年建立されたのが魁塚（さきがけづか）である。かつての中山道沿いに塚がある。さらに昭和3（1928）年に正五位相楽総三、従五位（じゅ）渋谷総司の贈位があり、晴れて志士として認められた。

〈高校教科書の記述〉

新政府はただちに、慶喜を朝敵として追討する東征軍を発したが〔注〕、江戸城は、慶喜の命を受けた勝海舟（義邦）と東征軍参謀西郷隆盛の交渉により、同年4月に無血開城された。

〔注〕官軍と呼ばれた東征軍には、豪農・豪商がみずから組織した義勇軍を率いて参加した。とくに相楽総三らの赤報隊は幕府領での年貢半減を掲げて東山道を東進し、農民の支持を得たが、新政府はのちに相楽らを偽官軍として処刑した。（『詳説日本史』山川出版社・228頁）

【参考文献】

・「赤報記」（『諏訪史料叢書』第2巻、『新編信濃史料叢書』第20巻）

・笠原一男・児玉幸多編『日本史こぼれ話　近世・近代』山川出版社

・高木俊輔『維新史の再発掘』日本放送協会